都城市文化財調査報告書第94集

# 都城市山之口地区
## （旧北諸県郡山之口町）
# 遺跡詳細分布調査報告書

２００９年３月

宮崎県都城市教育委員会

表紙写真：50年代前半の花木周辺のようす（山之口地区公民館所蔵）

# 序 文

平成18年1月に旧北諸県郡の山之口町、高城町、山田町、高崎町が旧都城市と合併して、新都城市が誕生しました。

国の重要無形民俗文化財である山之口麓文弥節人形浄瑠璃や宮崎県指定無形民俗文化財である山之口弥五郎どん祭りが保存・伝承されている旧山之口町におきましては、古くより数多くの遺跡が所在することが知られ、いくつかの遺跡が発掘調査されたこともありましたが、これまで、町域全体にわたる正式な遺跡詳細分布調査が実施されたことはありませんでした。

そこで今回、都城市教育委員会では市町村合併を機に、国・県の補助を受けて山之口地区内の悉皆調査を実施し、その成果を遺跡詳細分布調査報告書として刊行することにしました。

今回の調査の結果、133箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認することができましたが、埋蔵文化財はその性格上、地表観察による遺跡の把握には限界がありますので、今後も追加・訂正を期さなければなりません。

最後になりましたが、現地踏査及び報告書の作成に際しましては、数多くの山之口区民の皆様や、関係機関の方々から多くの情報の提供と多大なる御協力を得ることができました。区民の皆様をはじめ関係機関に対し、心から感謝申し上げます。また、今後とも文化財保護行政の充実に御理解御協力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成21年3月

都城市教育委員会　教育長　玉利　譲

# 例 言

1．本書は、都城市教育委員会が平成 20 年度に、国・県の補助を受けて作成した都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書です。
2．本書に添付した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１国土基本図を複製したものです。（承認番号　平 20 九複、第 99 号）
3．一覧で掲載された遺跡は、すべて文化財保護法による「周知の埋蔵文化財包蔵地」になります。
4．「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には、文化財保護法により、発掘（工事）に着手しようとする前までに諸手続きが必要となります。詳細については、11 に示した都城市教育委員会文化財課の連絡先まで御照会ください。
5．埋蔵文化財は地下に埋もれている性格上、地表面観察による範囲確認には限界があるので、今回示した範囲外にも存在する可能性があります。今後、補正・追加・削除等が行われる場合があります。
6．遺跡名の基本となる小字と読みは『都城地方法務局高城登記所の字の一覧表』（平成 13 年１月 31 日）によりました。
7．遺跡番号には山之口地区の略記号である「ＹＫ」を冠して整理しました。
8．遺跡立地の地形区分は、基本的に宮崎県土地分類基本調査によりましたが、一部、氾濫原（沖積低地）として一括された地形面については、その中の微高地を沖積段丘として取り扱いました。
9．本書の執筆は都城市文化財課桒畑光博と中村友昭が共同して行い、編集は桒畑が行いました。
10．今回の踏査による採集遺物（個人蔵以外）や記録類は都城市教育委員会で保管しています。
11．本書及び埋蔵文化財に関するお問い合わせは、都城市教育委員会文化財課（〒885－0034 宮崎県都城市菖蒲原町 19－1　都城市役所菖蒲原別館　電話 0986－23－9547）へお願いします。

# 本 文 目 次


第１章　調査対象地の地形と地質・・・

## 第１章　調査対象地の地形と地質

都城市山之口地区（現在の都城市山之口町、旧北諸県郡山之口町）は宮崎県の西南部、都城盆地の北東部に位置し、東は宮崎市田野町、南は北諸県郡三股町、西から北は都城市高城町、北は宮崎市高岡町と接している。地区のほぼ中央を斜めに横切るように、ＪＲ日豊本線が走行し、その南方を国道 269 号線が走り、それと並行するように九州縦貫自動車道宮崎線が通っている。東西約９km、南北約 17km の細長い範囲で、総面積は約 97.5k ㎡、地区の約 80%は国有林を中心とする林野となっている。

都城盆地は、東半部に東岳・柳岳を主峰とする山地、西には瓶台山－白鹿岳の山地と北西に高千穂峰をはじめとする霧島火山群があり、東と西を山地に囲まれた広大な地溝状の凹地を呈している。本地域の地形は東縁山地と盆地底の大きく２つに区分される。東縁山地は起伏量・谷密度・傾斜度から、東岳－柳岳山地（鰐塚山・小松山－東岳－柳岳－牛峠）と青井岳－大谷山地に区分されるが、後者の起伏量は小さく、西縁は山麓地状を呈して、盆地底に孤立丘陵を点在させており、山之口地区にはそのような孤立丘陵を数多く見ることができる。ちなみに、山地を作る固結堆積物である四万十累層群は、下位の黒色頁岩優勢な地層である山之口層群と上位の砂岩優勢な地層である中郷層群に大別できる。東縁山地から流れ出る河川は、青井岳渓谷を経由して宮崎市田野町との境界付近を北流する境川、下流は有水川となる永野川、地区の中南部を流れる東岳川・花木川・富吉川・樋口川などがある。後者の河川は山地を刻む谷沿いに河岸段丘を残すと同時に山地の出口から西及び北西に向かって、現在は開析されている広大な扇状地（開析扇状地）を形成している。

テフラについては、平成 19 年度に試掘調査し、平成 20 年度に本調査を実施した萩ヶ久保第 1 遺跡（YK34）において、上位から桜島文明軽石（15 世紀後半）、霧島御池軽石（$^{14}$C 年代：約 4200 年前）、鬼界アカホヤ火山灰（$^{14}$C 年代：約 6300 年前）、桜島 11 テフラ（$^{14}$C 年代：約 7500 年前）、桜島薩摩テフラ（$^{14}$C 年代：約 11000 年前）を確認している。新開遺跡（YK22）や二本杉遺跡（YK39）では、切り通し断面に霧島御池軽石と鬼界アカホヤ火山灰が確認でき、後者では、鬼界アカホヤ火山灰の下位に桜島 11 テフラの軽石濃集層が認められ、その下位から縄文時代早期後葉の土器片が露出している。これらのテフラは都城盆地の他の地域と同様、発掘調査の際の鍵層として有効である。今後は、シラス（入戸火砕流）の堆積を免れた山地帯において、より古いテフラ群の検出が期待される。

## 第2章　調査体制と方法

### 第１節　調査体制

調査体制は下記のとおりである。

調査主体　都城市教育委員会

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査総括 | 都城市教育委員会 | 教育長 | 玉利　譲 |
| 調査事務局 | 同 | 文化財課長 | 和田芳律 |
| | | 文化財課副課長 | 常盤公生 |
| | | 文化財課主幹 | 矢部喜多夫 |
| 調査担当 | 同 | 文化財課副主幹 | 桒畑光博 |
| | | 文化財課主事 | 栗山葉子 |
| | | 文化財課嘱託 | 下田代清海　中村友昭 |
| 庶務 | | 文化財課嘱託 | 斎藤麗子 |

踏査・整理作業員　大盛祐子　外山亜紀子　中川みな子　奥登根子　新屋美佳　水元美紀子　水光弘子　尾曲真紀　児玉信子　吉留優子

調査協力者　山下博明（南九州文化研究会会長）　山下ひとみ

### 第２節　調査方法

現地踏査を始める前に、山之口総合支所の教育課より、山之口町内在住の山下博明氏（南九州文化研究会会長）が町内における遺跡の分布状況をある程度把握しているという情報を得ていたので、踏査開始直後に同氏を訪ねて情報収集をはかった。氏は御夫妻で昭和 50 年代から町内の数箇所の遺跡を随時踏査されており、その際に採集した多量の遺物を青井岳の無頭子にある倉庫に保管されていた。今回の調査では、その遺物についても、採集地点ごとに整理して、注記することとした。また、山之口地区公民館２階の民俗資料室に展示されていた町内出土遺物もこの機会に整理して、出土地点の再確認を行って、遺跡詳細分布図に反映させることとした。

今回の現地踏査による遺物の採集に際しては、旧山之口町内を富吉、花木、山之口の３つの大字で区切り、さらに大字山之口については、麓、永野、青井岳の３つの地域に細分して、遺物採集地点を地域ごとに整理番号を付して登録していった。調査時は、旧山之口町が作成した管内図（地形図）コピーと山之口町商工会が発行した住宅地図を持ち歩いて、調査員と作業員数名で田畑を中心に遺物の採集を行い、採集した地点を地図に記入していった。山林については、一部の林道の切り通しにおいて、地層断面観察を実施したが、全域を網羅することは不可能であった。採集した遺物は整理番号と採集日を記入した荷札とともにビニール袋に入れて持ち帰り、洗浄・選別・注記・台帳記載を行った。また、それと並行して、山之口地区公民館（旧山之口町中央公民館）が保管していた管内出土品と地区住民の所蔵遺物を調査して出土地点の洗い出しを行い、これらを総合して遺跡調査カードに反映させることとした。

なお、踏査着手前の平成 20 年４月 25 日には、山之口地区自治公民館長会において今回の調査に関する説明を行い、回覧板でチラシを各戸に配布したり、地区内の小中学校に情報提供を依頼したりして、調査に対する理解と協力を呼びかけるとともに、情報収集にも努めた。踏査時においては、できるだけ住民の方々に声をかけ、調査への理解を求めるとともに、聞き取り調査も行い、周辺の以前の地形状況や過去に出土品があったかどうかなどを確認した。

## 第3章　調査概要

埋蔵文化財包蔵地区域である遺跡の範囲については、基本的に今回の踏査による遺物採集地点とこれまでに遺物が採集されていた地点を手がかりとして、城館跡・寺院跡等の地元伝承のある場所も加味しながら検討を進め、米軍による昭和 20 年代撮影の空中写真と宮崎県による『土地分類基本調査』の地形分類図によって一帯の地形環境等を考慮して推定した。なお、当然ながら、文化庁や宮崎県教育委員会が刊行した既存の報告書等に明記された遺跡についても参考にした。

今回の調査により、旧高城町との境界に所在し、山之口地区側へ範囲が拡大して遺跡範囲の変更を要する必要のある既知の５箇所の遺跡（高城町 1019：土角遺跡・同町 1021：大原第２遺跡・同町 2007：横松遺跡・同町 2009：佐土原大道遺跡・同町 2010：二本松遺跡）を除くと、あらためて、128 箇所の遺跡を確認することができた（総数 133 遺跡）。当然ながら時代の複合する遺跡が大半を占めるが、時代を縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代（奈良・平安時代）、中世、近世という具合に大別して、採集した遺物の時期が判別できた遺跡の数を大字ごとに累計すると、下記の内訳のとおりとなった。

| 地区・大字 | 縄文時代 | 弥生時代 | 古墳時代 | 古代（奈良・平安） | 中世 | 近世 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 富吉（51 遺跡） | 21 | 29 | 8 | 24 | 32 | 44 |
| 花木（30 遺跡） | 11 | 12 | 1 | 11 | 17 | 15 |
| 山之口（52 遺跡） | 21 | 10 | 1 | 15 | 24 | 40 |
| 合計（133 遺跡） | 53 | 51 | 10 | 50 | 73 | 99 |

この数字を一瞥すると、近世の遺物が採集された遺跡が圧倒的多数を占め、反対に古墳時代の遺跡が極端に少ないことがわかる。また、縄文時代、弥生時代、古代の遺跡がほぼ同数で、中世の遺跡がそれ

らよりやや多い。今回の調査が表面採集だけによるので、この結果が実態を示しているものでないことは言うまでもないが、地区別の時代の比率をみると、大字富吉における弥生・古墳・古代・中世の各時代遺跡の割合が高いことは注目される。

縄文時代の遺跡は、山下博明氏によって、県指定山之口村古墳６～10号墳（川内古墳とも呼ばれている）のあったとされる脇之田第２遺跡（YK66）や山之口城跡（YK110）において、まとまった遺物が採集されていた（図３）。前者では曽畑式土器を中心とする縄文時代前期の良好な資料が、後者では縄文時代早期と後期の土器群が認められる。都城盆地においては一般的に縄文時代早期の遺物はより上位に堆積するテフラによって厚く覆われているために、現地表面に露出している可能性は低い。しかしながら、新開遺跡（YK22）や二本杉遺跡（YK39）のように、切り通しの土層断面において、鬼界アカホヤ火山灰下位から土器片を採集することができた遺跡があるほか、平成19年度の試掘調査によってその存在が明らかとなった萩ヶ久保第１遺跡（YK34）のように、通常は表面的な踏査が不可能である山地帯の低丘陵上には縄文時代早期をはじめ前・中期の遺跡も存在する可能性が高い。今後、舌状台地端部や丘陵の先端部における開発の際には注意が必要である。今回の踏査で土器型式の同定が可能な事例としては、的野遺跡（YK37）、中間遺跡（YK80）、田原遺跡（YK83）等で縄文時代後期後半の中岳Ⅱ式土器のまとまった資料が確認された。特に田原遺跡では多量の土器片を採集できたほか、磨製石斧等の石器も散布していた。

弥生時代の遺物としては、既存の採集資料により、峯元第１遺跡（YK72）内で出土したとされる磨製石剣、八幡領遺跡（YK69）や才ヶ野遺跡（YK113）では完形の土器が出土している（図３・４）。今回の踏査では、段丘化した開析扇状地の縁辺部において遺物の散布が認められた。例えば、中間遺跡（YK80）では、弥生時代中期の土器片だけでなく、磨製石鏃等の石器の素材となる剥片が多数散布していた。また、山頂に熊野神社の所在する木上遺跡（YK14）では弥生時代の土器片が採集され、神社登り口の切り通しにおいて、遺構と思われる落ち込みを確認している。

山之口地区では、昭和11年７月17日に『山之口村古墳』として９基の円墳と１基の地下式横穴墓が宮崎県の指定文化財に登録されている。このうち、７基の円墳は国鉄日豊線開通工事や農業関連事業等により消滅し、昭和59年７月20日に指定文化財から解除されている。現存するのは、大字富吉字後田に所在する山之口村古墳１号墳・２号墳である（図１・２）。１号墳は、直径7.2mで、高さ1.0mをはかる。墳頂平坦面はなく、小山状を呈する円形の墳丘である。最頂部の標高は約171.0mである。２号墳は、１号墳の北東約2.2mに隣接している。直径5.2mで、高さ0.75mをはかる。１号墳と同じく小山状を呈する円形の墳丘である。最頂部の標高は約170.5mをはかる。山之口村古墳１号墳・２号墳以外の古墳の分布をみると、消滅した３号墳が富吉地区にあるほかは、花木地区に集中している（５～10号墳）。このうち５号墳は、図４－38・39の土師器坏身・須恵器坏蓋（陶邑Ⅱ型式第４段階）出土地点（地下式横穴墓か）に近接しており、両者の関係性を想定できる。また、花木地区では、山之口小学校（ＹＫ71：王子山遺跡）および、町総合運動公園において地下式横穴墓が数基検出され、鉄刀子や勾玉が出土したといわれる（山之口町史編さん委員会 2005）。この他に周辺住民から、富吉地区にかつて存在した多数の塚の伝承を各所で聞き取ることができた。なお、古墳時代の採集遺物は、富吉川流域とその支流である樋口川流域を中心とした山之口地区南部に集中するもののその数は極端に少ない。

古代（奈良・平安時代）においては、当地区内に日向国府と大隅国府とを結ぶ官道が通り、そのルート沿いに水俣駅が置かれていたのではないかと推定されている。今回の踏査では、大字富吉に所在し、従来から平安時代の官衙跡を含む拠点的な遺跡ではないかと言われている、通称「新町原」の後田遺跡（YK40）一帯において、平安時代の土師器や須恵器が多数散布していた。山下博明氏の採集資料の中には緑釉陶器の破片も含まれており、この遺跡一帯が古代において特別な場所であったことがうかがえる。このことは中世において都城島津氏が重視した的野正八幡宮が隣接していることと無関係ではないと考えられる。参考までに奈良・平安時代の布痕土器（固形塩生産用の焼塩土器）の採集状況をみると、

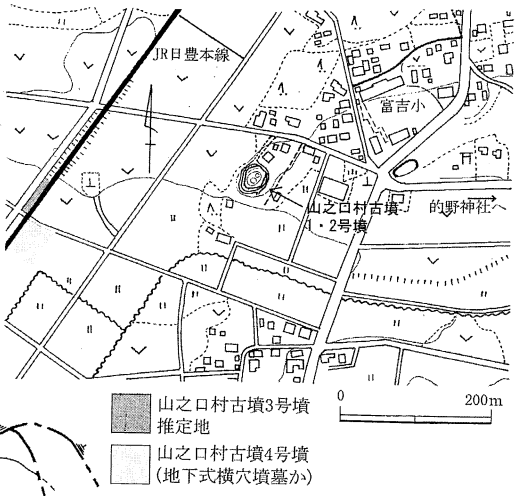



図1　山之口村古墳1～4号墳位置図

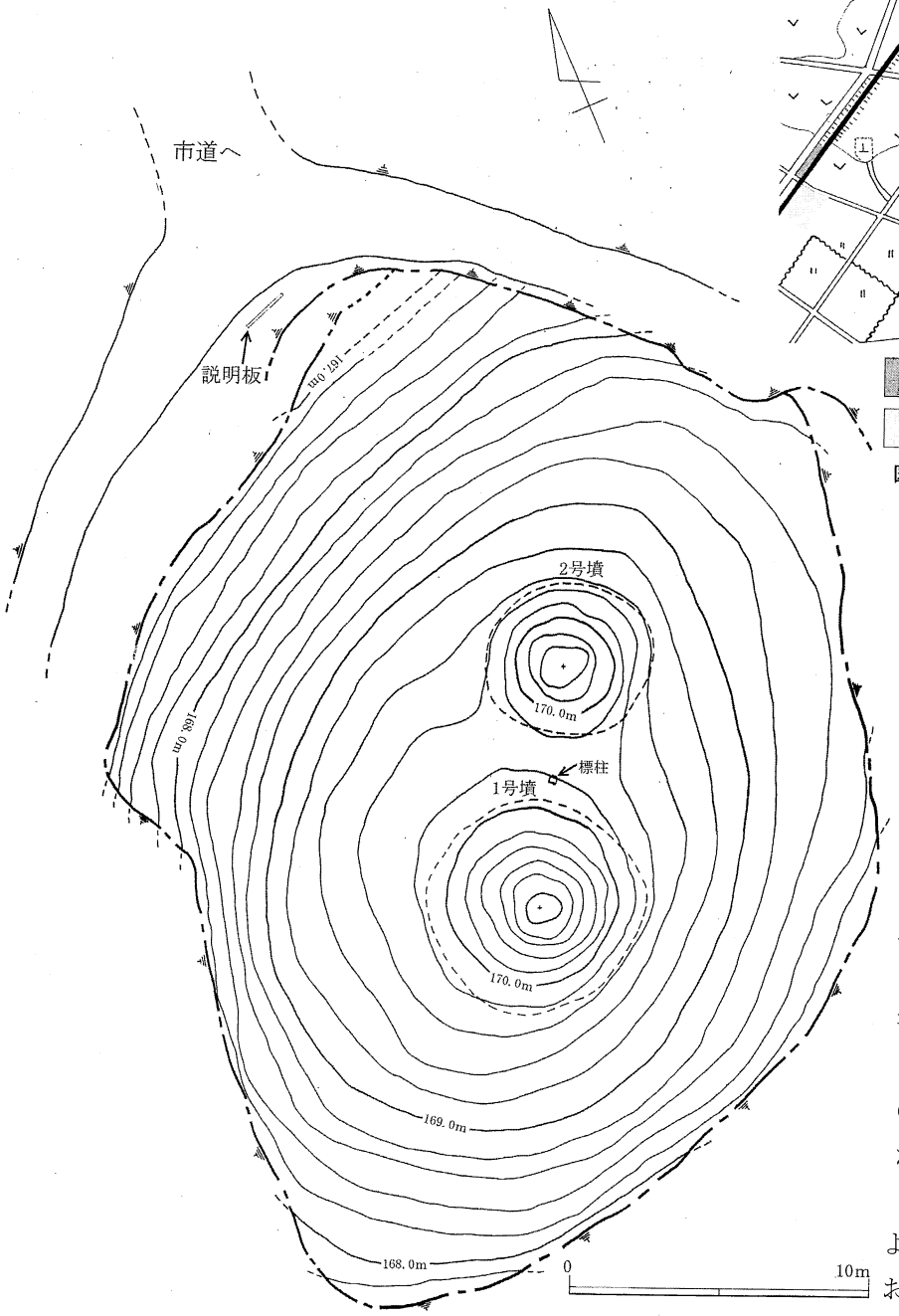



図2　県指定山之口村古墳1・2号墳墳丘測量図

富吉6遺跡（YK30・37・40・42・43・47）、花木5遺跡（YK51・52・56・64・69）、山之口6遺跡（YK83・89・93・95・96・117）である。また、東岳川上流の山間部において、古代の遺物が採集できる遺跡があり（YK114：小椎ヶ野遺跡・YK117：上長野第1遺跡など）、青井岳の境川右岸の天神河内第1遺跡（宮崎市田野町）と同様に、古代の交通ルート上の要所に何らかの施設や集落が営まれていたと考えられる。

中世の資料は、山下博明氏により、山之口城跡（YK110）において多量の貿易陶磁器や国産陶器等が採集されていた。また、旧山之口町教育委員会による三俣（松尾）城跡（YK53）の発掘調査（未報告）と宮崎県埋蔵文化財センターによる三俣（松尾）城北東曲輪跡（YK54）の発掘調査が実施され、中世城郭内の遺構や遺物が検出されている。三俣（松尾）城跡の西側眼下には、肝付兼重に由来する兼重神社があり、その境内には「腹切りどん」と呼ばれている五輪塔があるが、今回の調査では、上記の大字花木一帯よりも、大字富吉の的野神社周辺において、貿易陶磁器が散布している地点が目立ち、先述した古代の遺物分布状況とオーバーラップしている。

近世には、山之口が鹿児島藩本藩の直轄領となり、地頭仮屋が置かれ、その周辺に麓集落が形成されたとされる。今回の調査によって、現在も住宅地である麓一帯には近世の遺物が各所に散布していた（YK90：山之口麓遺跡）。また中世以降、青井岳天神嶺を地域境（東を山東、西を山西）とする地域区分概念があり、近世にも同所が鹿児島藩と飫肥藩という2つの藩の境界に位置づけられたという関係もあり、大字山之口には境目に置かれた番所跡が各所に存在している（ＹＫ109：一之渡遺跡など）。

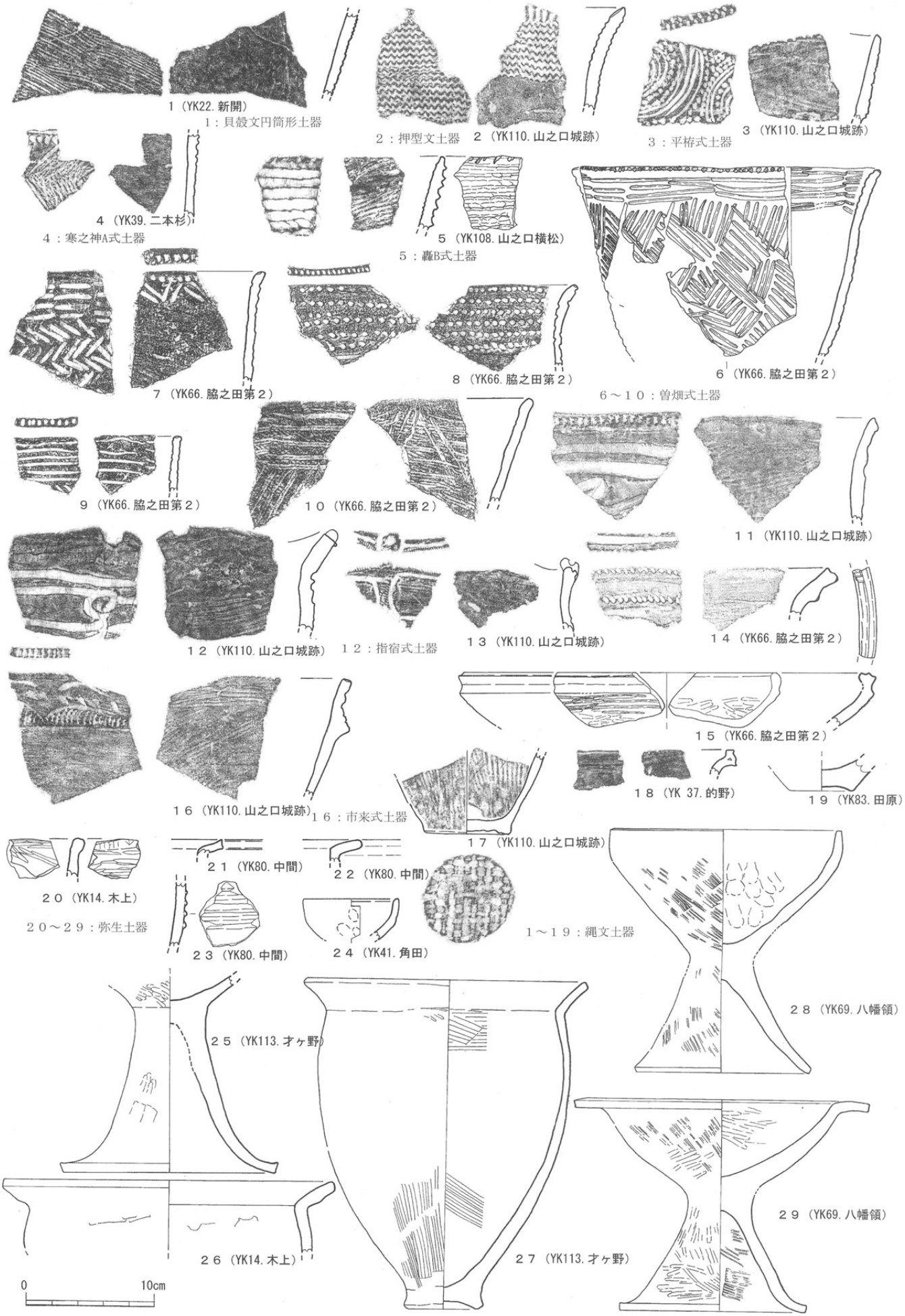
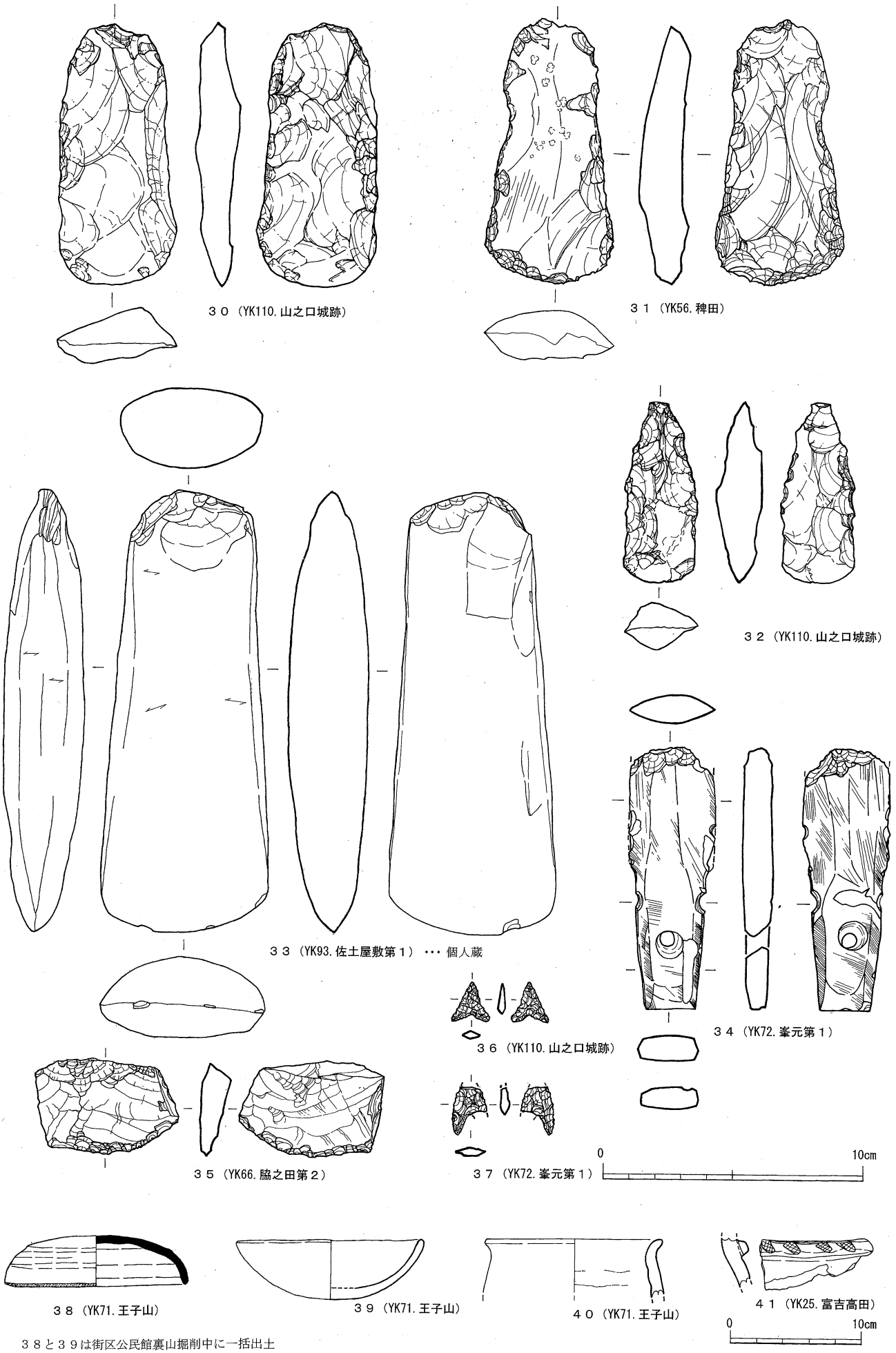



図３　採集遺物実測図（縄文土器と弥生土器）※（　）内は遺跡番号と遺跡名




３８と３９は街区公民館裏山掘削中に一括出土

**図４　採集遺物実測図（石器と古墳時代の土器）**※（　）内は遺跡番号と遺跡名

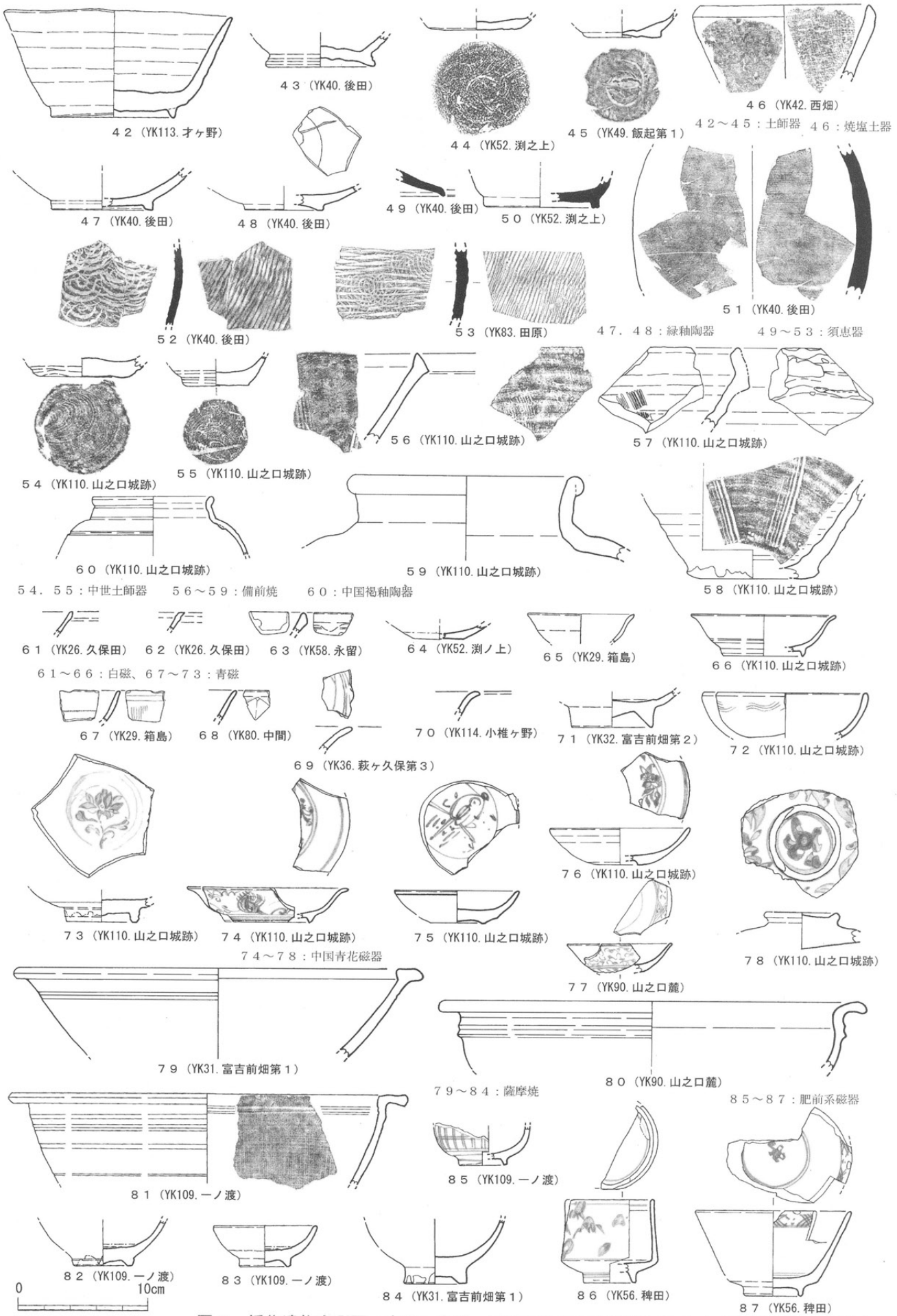



図５　採集遺物実測図（古代・中世・近世の土器と陶磁器）※（　）内は遺跡番号と遺跡名

表　都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表（1）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 立地 | 時代 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| YK1 | ジョンタン<br>城谷 | 山之口町大字富吉字城谷 | 城館跡 | シラス台地斜面 | 中世 | 13,15,39,40 | 三股町N37城内遺跡（梶山城跡）と接続 |
| YK2 | トミヨシムランマエ<br>富吉村前 | 山之口町大字富吉字村前 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK3 | カミベップ<br>上別府 | 山之口町大字富吉字上別府、楠木田、寺田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、古墳、古代、中世、近世 | | |
| YK4 | トミヨシカタヒラ<br>富吉片平 | 山之口町大字富吉字片平、片平下 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK5 | イシノ<br>犬王 | 山之口町大字富吉字犬王、柿木田 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 弥生、中世、近世 | | |
| YK6 | ナカシマバル<br>中島原 | 山之口町大字富吉字中島原、犬王 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、近世 | | |
| YK7 | アイハラダイイチ<br>相原第1 | 山之口町大字富吉字相原、中島原 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 弥生、近世 | 13 | 三股町N34方境遺跡と接続 |
| YK8 | タシマバル<br>田島原 | 山之口町大字富吉字田島原、中島下 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 近世 | | |
| YK9 | アイハラダイニ<br>相原第2 | 山之口町大字富吉字相原 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古墳、近世 | | |
| YK10 | ナカシマシタ<br>中島下 | 山之口町大字富吉字中島下、田島原、カラ神 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、中世、近世 | | |
| YK11 | タシマ<br>田島 | 山之口町大字富吉字田島原、木上原、相原 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 弥生、古代、近世 | 13 | 三股町N21木ノ上遺跡と接続 |
| YK12 | キウエバルダイイチ<br>木上原第1 | 山之口町大字富吉字木上原、木上 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 近世 | | |
| YK13 | キウエバルダイニ<br>木上原第2 | 山之口町大字富吉字木上原、前川 | 散布地 | 河岸段丘面 | 中世、近世 | | |
| YK14 | キウエ<br>木上 | 山之口町大字富吉字木上 | 散布地 | 丘陵地Ⅱ | 弥生、古代、中世、近世 | 15,25 | 頂上に熊野神社あり |
| YK15 | カミハツダ<br>上原田 | 山之口町大字富吉字上原田、木上、前原田 | 散布地 | 河岸段丘面、開析扇状地面 | 弥生、中世、近世 | | |
| YK16 | ナカハツダ<br>中原田 | 山之口町大字富吉字中原田、上原田 | 散布地 | 開析扇状地面 | 弥生、中世、近世 | | |
| YK17 | ナリエダ<br>成枝 | 山之口町大字富吉字成枝 | 散布地 | 河岸段丘面、沖積段丘面 | 古代 | | |
| YK18 | イワンモト<br>岩元 | 山之口町大字富吉字岩元、別府平 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK19 | バンデン<br>番田 | 山之口町大字富吉字番田、岩元、牛ヶ丸 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、古墳、中世、近世 | | |
| YK20 | サンヤバルダイイチ<br>山野原第1 | 山之口町大字富吉字山野原、番田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK21 | サンヤバルダイニ<br>山野原第2 | 山之口町大字富吉字山野原 | 散布地 | シラス台地面、河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、近世 | 15,26 | 東方に瑞應寺跡の伝承地あり |
| YK22 | シンカイ<br>新開 | 山之口町大字富吉字新開 | 集落跡 | シラス台地面 | 縄文 | | |
| YK23 | ナナウラジョウアト<br>七浦城跡 | 山之口町大字富吉字箱島、寺ヶ迫 | 城館跡 | 丘陵地Ⅱ、シラス台地面 | 中世 | 39,40 | |
| YK24 | テラガサコ<br>寺ヶ迫 | 山之口町大字富吉字寺ヶ迫 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古代、近世 | | |
| YK25 | トミヨシタカダ<br>富吉高田 | 山之口町大字富吉字高田、久保田、番田、星川 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古墳、近世 | | |
| YK26 | クボタ<br>久保田 | 山之口町大字富吉字久保田 | 散布地 | 沖積段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK27 | イマンビュウ<br>今別府 | 山之口町大字富吉字今別府、樋口 | 散布地 | 沖積段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK28 | ヨキトキ<br>斧礪 | 山之口町大字富吉字斧礪 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、近世 | | |
| YK29 | ハコジマ<br>箱島 | 山之口町大字富吉字箱島、城園、下王子原、上王子原 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK30 | シロンソン<br>城園 | 山之口町大字富吉字城園、下王子原 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK31 | トミヨシマエハタダイイチ<br>富吉前畑第1 | 山之口町大字富吉字前畑 | 城館跡、散布地 | 河岸段丘面、丘陵地Ⅱ | 弥生、古墳、古代、中世、近世 | 39 | 尼ヶ城跡あり |

表　都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表（2）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 立地 | 時代 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| YK32 | トミヨシマエハタダイニ<br>富吉前畑第2 | 山之口町大字富吉字前畑、城園、西畑 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、古墳、古代、中世、近世 | | |
| YK33 | カミオウジバル<br>上王子原 | 山之口町大字富吉字上王子原 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK34 | ハギガクボダイイチ<br>萩ヶ久保第1 | 山之口町大字富吉字萩ヶ久保 | 集落跡 | 小起伏山地内の低丘陵 | 縄文、中世 | | 平成20年度緊急発掘調査により消滅 |
| YK35 | ハギガクボダイニ<br>萩ヶ久保第2 | 山之口町大字富吉字萩ヶ久保 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK36 | ハギガクボダイサン<br>萩ヶ久保第3 | 山之口町大字富吉字萩ヶ久保、的野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、古墳、古代、中世、近世 | | |
| YK37 | マトノ<br>的野 | 山之口町大字富吉字的野、後田 | 社寺跡、散布地 | 河岸段丘面、小起伏山地 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | 11,12,15 | 『全国遺跡地図』の的野遺跡、的野正八幡宮、別当弥勒寺跡 |
| YK38 | トミヨシヤマンタ<br>富吉山田 | 山之口町大字富吉字山田、的野 | 散布地 | 丘陵地Ⅱ、河岸段丘面 | 縄文、古代、中世 | | |
| YK39 | ニホンスギ<br>二本杉 | 山之口町大字富吉字二本杉、山田 | 散布地 | 丘陵地Ⅱ、河岸段丘面 | 縄文、弥生、近世 | | |
| YK40 | ウシロダ<br>後田 | 山之口町大字富吉字後田、二本杉 | 古墳、散布地 | 丘陵地Ⅱ、河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世 | 18,25 | 県指定山之口村古墳1～4号墳(うち3･4号墳は現存せず)あり。一帯が「新町原」と呼ばれている。 |
| YK41 | スンダ<br>角田 | 山之口町大字富吉字角田、二本杉、並松 | 散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 弥生、中世、近世 | | |
| YK42 | ニシハタ<br>西畑 | 山之口町大字富吉字西畑、後田 | 散布地 | 河岸段丘面、沖積段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK43 | トミヨシヒラ<br>富吉平 | 山之口町大字富吉字平、黒土田 | 散布地 | 河岸段丘面、沖積段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK44 | シンマチ<br>新町 | 山之口町大字富吉字新町、一星、平、前牟田、黒土田 | 散布地 | 河岸段丘面、開析扇状地面 | 縄文、中世、近世 | | |
| YK45 | フルジョウ<br>古城 | 山之口町大字富吉字古城、並松 | 城館跡、散布地 | 河岸段丘面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 縄文、中世、近世 | 11,39,40 | 『全国遺跡地図』の下富吉遺跡。鶉ヶ城跡あり |
| YK46 | トミヨシマエダ<br>富吉前田 | 山之口町大字富吉字前田 | 散布地 | 開析扇状地面、沖積段丘面 | 弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK47 | エノキ<br>榎木 | 山之口町大字富吉字榎木、上森川原、城下 | 散布地 | 開析扇状地面 | 弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK48 | サソラ<br>笹原 | 山之口町大字富吉字笹原、向原 | 散布地 | 開析扇状地面 | 近世 | | |
| YK49 | イボコリダイイチ<br>飯起第1 | 山之口町大字富吉字飯起、大字花木字飯起 | 散布地 | 開析扇状地面 | 古代、中世、近世 | | |
| YK50 | ハランソン<br>原園 | 山之口町大字富吉字角田、大字花木字原園 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古代、中世、近世 | 11 | 『全国遺跡地図』の平Ⅰ遺跡 |
| YK51 | カドタ<br>門田 | 山之口町大字花木字門田 | 社寺跡、散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、古代、近世 | | 蓮性寺跡あり |
| YK52 | フツノウエ<br>渕ノ上 | 山之口町大字花木字渕ノ上、門田、百地 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、古代、中世、近世 | 11 | 『全国遺跡地図』の平Ⅱ遺跡 |
| YK53 | ミマタ(マツオ)ジョウシュカクブアト<br>三俣(松尾)城主郭部跡 | 山之口町大字花木字門田、油田、山ノ田 | 城館跡 | 小起伏山地 | 中世 | 7,11,15,39,40 | 「松尾城」とも呼ばれる。『全国遺跡地図』の松尾城跡 |
| YK54 | ミマタ(マツオ)ジョウホクトウクルワアト<br>三俣(松尾)城北東曲輪跡 | 山之口町大字花木字山ノ田、百地 | 城館跡 | 小起伏山地 | 縄文、中世 | 24 | |
| YK55 | ハナノキヤマノタ<br>花木山ノ田 | 山之口町大字花木字山ノ田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、中世、近世 | | |
| YK56 | ヒエダ<br>稗田 | 山之口町大字花木字稗田、諏訪前、園田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK57 | スワンマエ<br>諏訪前 | 山之口町大字花木字諏訪前 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK58 | ナガドメ<br>永留 | 山之口町大字花木字永留、柱松 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、中世 | | |
| YK59 | クブキガジョウアト<br>俵ヶ城跡 | 山之口町大字花木字又水 | 城館跡 | 小起伏山地 | 中世 | 39,40 | |
| YK60 | カワニシ<br>川西 | 山之口町大字花木字川西 | 散布地 | 河岸段丘面、沖積段丘面 | 近世 | | |
| YK61 | ボガノ<br>房野 | 山之口町大字花木字房野、荒平 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古代、中世、近世 | | |
| YK62 | スズメガジョウアト<br>雀ヶ城跡 | 山之口町大字花木字祢津ヶ谷 | 城館跡 | 中起伏山地 | 中世 | 39 | 「城ヶ平」と呼ばれる。 |
| YK63 | ハナノキムラマエ<br>花木村前 | 山之口町大字花木字村前 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文 | | |
| YK64 | カメダ<br>亀田 | 山之口町大字花木字亀田、寺田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古代、近世 | | |

表　都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表（3）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 立地 | 時代 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| YK65 | ワキノタダイイチ<br>脇之田第1 | 山之口町大字花木字脇之田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生 | | |
| YK66 | ワキノタダイニ<br>脇之田第2 | 山之口町大字花木字脇之田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | 18 | 県指定山之口村古墳6～10号墳（すべて現存せず）「川内古墳」とも呼ばれる。縄文土器多量出土。 |
| YK67 | フカツボ<br>深坪 | 山之口町大字花木字深坪、野間口 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生、中世 | | |
| YK68 | ノマグチ<br>野間口 | 山之口町大字花木字野間口 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生 | | |
| YK69 | ハチマンリョウ<br>八幡領 | 山之口町大字花木字八幡領、大迫 | 散布地 | 河岸段丘面、沖積段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | 完形の弥生土器（高坏）出土 |
| YK70 | イボコリダイニ<br>飯起第2 | 山之口町大字花木字飯起、横松、馬越 | 散布地 | 開析扇状地面 | 古代、中世、近世 | | |
| YK71 | オウジヤマ<br>王子山 | 山之口町大字花木字王子山、向原、佐土原 | 城館跡、散布地 | シラス台地面、成層シラス台地と同時期の削剥面 | 古墳、中世、近世 | 18,39,40 | 王子城跡あり。街区公民館裏山から須恵器・土師器出土（地下式横穴墓か）。県指定山之口村古墳5号墳（現存せず）。 |
| YK72 | ミネモトダイイチ<br>峯元第1 | 山之口町大字花木字峯元、佐土原 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | 磨製石剣出土 |
| YK73 | ゼンガメダイイチ<br>銭亀第1 | 山之口町大字花木字銭亀 | 散布地 | 開析扇状地面 | 縄文 | | 平成18年度試掘調査により発見 |
| YK74 | ゼンガメダイニ<br>銭亀第2 | 山之口町大字花木字銭亀、脇別府 | 散布地 | 開析扇状地面 | 縄文 | | 平成18年度試掘調査により発見 |
| YK75 | ワキベップ<br>脇別府 | 山之口町大字花木字脇別府 | 散布地 | 開析扇状地面 | 弥生 | | |
| YK76 | ミネモトダイニ<br>峯元第2 | 山之口町大字花木字峯元、池平 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生 | | |
| YK77 | ハナノキイケンビラ<br>花木池平 | 山之口町大字花木字池平 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代 | | |
| YK78 | ヤマノクチムコウバル<br>山之口向原 | 山之口町大字山之口字向原 | 散布地 | 開析扇状地面 | 中世、近世 | | |
| YK79 | シタンデラ<br>下平 | 山之口町大字山之口字下平 | 散布地 | 開析扇状地面 | 近世 | | |
| YK80 | ナカマ<br>中間 | 山之口町大字山之口字中間、向原、境木、浜座、鶴井ヶ窪 | 散布地 | 開析扇状地面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK81 | イッポンマツ<br>一本松 | 山之口町大字山之口字一本松 | 散布地 | 開析扇状地面 | 中世、近世 | | |
| YK82 | ヤマノクチナカオ<br>山之口中尾 | 山之口町大字山之口字中尾 | 城館跡、散布地 | 開析扇状地面 | 縄文、中世、近世 | 39 | 田原陣跡あり |
| YK83 | タバル<br>田原 | 山之口町大字山之口字田原、川南 | 散布地 | 開析扇状地面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK84 | タケウチ<br>竹内 | 山之口町大字山之口字竹内 | 散布地 | 沖積段丘面 | 近世 | | |
| YK85 | タバルノウエ<br>田原ノ上 | 山之口町大字山之口字田原ノ上 | 城館跡、散布地 | 開析扇状地面 | 中世、近世 | 39 | 田原陣跡あり |
| YK86 | シンデン<br>新田 | 山之口町大字山之口字新田 | 散布地 | 開析扇状地面 | 近世 | | |
| YK87 | ミヤノシタ<br>宮ノ下 | 山之口町大字山之口字宮ノ下 | 散布地 | 開析扇状地面 | 近世 | | |
| YK88 | ヤクラ<br>屋倉 | 山之口町大字山之口字屋倉、五本松、茶屋元 | 散布地 | 開析扇状地面 | 弥生、中世、近世 | | |
| YK89 | フジノキ<br>藤ノ木 | 山之口町大字山之口字藤ノ木 | 散布地 | 沖積段丘面 | 古代、近世 | | |
| YK90 | ヤマノクチフモト<br>山之口麓 | 山之口町大字山之口字麓 | 集落跡、社寺跡、散布地 | シラス台地面、開析扇状地面 | 中世、近世 | 15 | 鹿児島藩直轄領麓集落跡。十輪寺跡あり |
| YK91 | ヤマノクチマエダ<br>山之口前田 | 山之口町大字山之口字前田 | 散布地 | 開析扇状地面 | 近世 | | |
| YK92 | ウトンタン<br>宇都谷 | 山之口町大字山之口字宇都谷、田野堂、大字花木字浦田 | 城館跡 | 小起伏山地 | 中世 | 39 | 豊後陣跡。「陣之丘」とも呼ばれる。 |
| YK93 | サドヤシキダイイチ<br>佐土屋敷第1 | 山之口町大字山之口字佐土屋敷 | 社寺跡、散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代、中世、近世 | 15 | 福王寺跡あり。磨製石斧出土。 |
| YK94 | サドヤシキダイニ<br>佐土屋敷第2 | 山之口町大字山之口字佐土屋敷 | 城館跡 | シラス台地面 | 中世 | 39 | 「館ヶ野・佐渡屋敷」 |
| YK95 | タテノ<br>立野 | 山之口町大字山之口字立野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK96 | ヤカタガノ<br>屋形ヶ野 | 山之口町大字山之口字屋形ヶ野 | 散布地 | シラス台地面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | | |
| YK97 | クリノキ<br>栗ノ木 | 山之口町大字山之口字栗ノ木 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文 | | |

表　都城市山之口地区埋蔵文化財包蔵地 地名表（4）

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 立地 | 時代 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| YK98 | ササンノ<br>笹野 | 山之口町大字山之口字笹野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK99 | ミツクリ<br>箕作 | 山之口町大字山之口字箕作 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、近世 | | |
| YK100 | ヤマノクチヒガシバル<br>山之口東原 | 山之口町大字山之口字東原 | 散布地 | シラス台地面 | 近世 | | |
| YK101 | ナガノ<br>永野 | 山之口町大字山之口字永野、東原 | 散布地 | シラス台地面 | 近世 | | 山ノ神祠あり |
| YK102 | イモダ<br>芋田 | 山之口町大字山之口字芋田 | 散布地 | シラス台地面 | 縄文、弥生 | | |
| YK103 | バヌキ<br>場貫 | 山之口町大字山之口字場貫 | 散布地 | シラス台地面 | 近世 | | |
| YK104 | ヤマノクチダイマル<br>山之口大丸 | 山之口町大字山之口字大丸、芋田、永野 | 散布地 | シラス台地面 | 縄文、中世、近世 | | 島津寒天工場跡あり |
| YK105 | ヤマノクチナカンノダイイチ<br>山之口中野第1 | 山之口町大字山之口字中野 | 散布地 | シラス台地面 | 縄文 | | |
| YK106 | ヤマノクチナカンノダイニ<br>山之口中野第2 | 山之口町大字山之口字中野 | 散布地 | シラス台地面 | 古代 | | |
| YK107 | フルチ<br>古大内 | 山之口町大字山之口字古大内、古大内前田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 中世、近世 | | |
| YK108 | ヤマノクチヨコマツ<br>山之口横松 | 山之口町大字山之口字横松 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK109 | イチノワタシ<br>一ノ渡 | 山之口町大字山之口字一ノ渡 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古代、中世、近世 | 9,17,28,30 | 一ノ渡番所（山之口番所）跡 |
| YK110 | ヤマノクチジョウアト<br>山之口城跡 | 山之口町大字山之口字大門 | 城館跡 | シラス台地面、河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | 15,23,39,40 | 「亀鶴三石城」とも呼ばれる。 |
| YK111 | ダイモン<br>大門 | 山之口町大字山之口字大門 | 散布地 | シラス台地面 | 弥生、近世 | 12,15 | 走湯神社、修善寺跡あり |
| YK112 | ノガミ<br>野上 | 山之口町大字山之口字野上、城ヶ迫 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK113 | セガノ<br>才ヶ野 | 山之口町大字山之口字才ヶ野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世 | | 完形弥生土器、古代土師器出土 |
| YK114 | コシガノ<br>小椎ヶ野 | 山之口町大字山之口字小椎ヶ野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、古代、中世、近世 | | |
| YK115 | ナカヤシキ<br>中屋敷 | 山之口町大字山之口字中屋敷 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、近世 | | 弘法大師祠あり |
| YK116 | ヒナタゼ<br>日当瀬 | 山之口町大字山之口字日当瀬 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | 4,9,17,32 | 日当瀬番所跡 |
| YK117 | カミナガノダイイチ<br>上長野第1 | 山之口町大字山之口字上長野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、弥生、古代、中世 | | |
| YK118 | カミナガノダイニ<br>上長野第2 | 山之口町大字山之口字上長野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文 | | |
| YK119 | カミナガノダイサン<br>上長野第3 | 山之口町大字山之口字上長野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 弥生 | | |
| YK120 | ナル<br>成ル | 山之口町大字山之口字成ル | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK121 | ナドメ<br>奈留 | 山之口町大字山之口字奈留 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK122 | ナカカワウチ<br>中川内 | 山之口町大字山之口字中川内 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | 9,17 | 中川内番所跡 |
| YK123 | ガラクノダイイチ<br>雅楽野第1 | 山之口町大字山之口字雅楽野 | 散布地 | 河岸段丘面 | 古代、中世 | | |
| YK124 | ガラクノダイニ<br>雅楽野第2 | 山之口町大字山之口字雅楽野 | 散布地 | シラス台地面 | 弥生 | | |
| YK125 | ウトガシタ<br>宇都頭 | 山之口町大字山之口字宇都頭、鶴間田 | 散布地 | 河岸段丘面 | 縄文、中世 | | |
| YK126 | トビマツ<br>飛松 | 山之口町大字山之口字飛松 | 散布地・墓 | 河岸段丘面 | 近世 | | |
| YK127 | ナガレアイ<br>流合 | 山之口町大字山之口字流合 | 散布地 | シラス台地面 | 近世 | | |
| YK128 | ウナメ<br>宇名目 | 山之口町大字山之口字宇名目 | 散布地 | 河岸段丘面 | 近世 | 9,17 | 飛松番所跡 |

旧高城町との境界に所在する遺跡

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 種別 | 立地 | 時代 | 文献 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| TJ1019 | ドカク<br>土角 | 山之口町大字富吉字上森、松崎、上森原 | 散布地 | 開析扇状地面 | 縄文、弥生、古代、中世、近世 | 5 | 高城町1019土角遺跡の範囲変更 |
| TJ1021 | オオハルダイニ<br>大原第2 | 山之口町大字富吉字後原、京陣原 | 散布地 | 開析扇状地面 | 弥生 | 5 | 高城町1021大原第2遺跡の範囲変更 |
| TJ2007 | ヨコマツ<br>横松 | 山之口町大字花木字横松、後原、向原 | 散布地 | 開析扇状地面 | 中世、近世 | 5 | 高城町2007横松遺跡の範囲変更 |
| TJ2009 | サドワラオオミチ<br>佐土原大道 | 山之口町大字花木字銭亀、脇別府、後原 | 散布地 | 開析扇状地面 | 弥生 | 5 | 高城町2009佐土原大道遺跡の範囲変更 |
| TJ2010 | ニホンマツ<br>二本松 | 山之口町大字山之口字鶴井ヶ窪、境木 | 散布地 | 開析扇状地面 | 縄文、近世 | 5 | 高城町2010二本松遺跡の範囲変更 |

## 第4章 関連文献目録

（執筆者・編者の五十音順）


1．石川恒太郎　1968『郷土考古学叢書４　宮崎県の考古学』吉川弘文館

2．喜田貞吉　1930『日向国史』（1943再刊『日向国史・古代史』）

3．税所薫　1987「山之口正近探訪と円野神社の阿比留文字」『季刊南九州文化』第30号　南九州文化研究会

4．坂元又朗　1985「日向国山之口日当瀬人穴物語」『季刊南九州文化』第24号　南九州文化研究会

5．高城町教育委員会　1998〈高城町文化財調査報告書第７集〉『町内遺跡詳細分布調査報告書』

6．竹内理三編　1986『角川日本地名大辞典45　宮崎県』角川書店

7．立山健次　1969『都城盆地内主諸城』

8．藤岡謙二郎　1973「古代日向の地域的中心と交通路」『地理学評論』第46巻第10号

9．「ふるさとのみち宮崎の街道」編集委員会　2006『ふるさとのみち　宮崎の街道』宮崎県教職員互助会

10．ふるさと「やまのくち」再発見実行委員会・山之口町教育委員会編　2002『山之口町の文化財』

11．文化庁文化財保護部編　1977『全国遺跡地図　宮崎県』　文化庁

12．平凡社地方資料センター編　1997『日本歴史地名大系第46巻　宮崎県の地名』平凡社

13．三股町教育委員会　1996〈三股町文化財報告書第１集〉『三股町遺跡詳細分布調査報告書』

14．都城市教育委員会山之口生涯学習課編　2006『近世山之口町郷土史料』

15．宮崎県　1931『宮崎県史蹟調査第８輯　北諸県郡及都城市』

16．宮崎県　1998『宮崎県史　通史編　古代２』

17．宮崎県教育庁文化課　1979『宮崎県歴史の道調査報告書　薩摩街道』　宮崎県教育委員会

18．宮崎県教育庁文化財課編　2008『宮崎県指定古墳等再編活用事業報告書Ⅰ』　宮崎県教育委員会

19．宮崎県高等学校社会科研究会歴史部会　1990『新全国歴史散歩シリーズ45　新版宮崎県の歴史散歩』山川出版社

20．宮崎県農政水産部農業振興課　1980『都城・北諸県地域　土地分類基本調査　都城』国土調査　宮崎県

21．宮崎県農政水産部農業振興課　1981『小林・西諸県地域　土地分類基本調査　野尻』国土調査　宮崎県

22．宮崎県文献史料研究会　2004『宮崎県文献史料研究会叢書１　古今山之口記録』　鉱脈社

23．村田修三　1987「山之口城」『図説　中世城郭事典』３　新人物往来社

24．柳田宏一編　2004〈宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第97集〉『三俣城北東曲輪跡　国営都城盆地農業水利事業前方ファームポンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　宮崎県埋蔵文化財センター

25．山下博明　1985「宮崎県山之口地区史蹟調査報告」『季刊南九州文化』第23号　南九州文化研究会

26．山下博明　1985「日向山之口「補多山普門院瑞應寺跡」探索」『季刊南九州文化』第24号　南九州文化研究会

27．山下博明　1985「日向國三俣院山之口の関所」『季刊南九州文化』第25号　南九州文化研究会

28．山下博明　1986「日向国三俣院山之口の関所（Ⅱ）」「季刊南九州文化」第26号　南九州文化研究会

29．山下博明　1986「日向國三俣院山之口の関所（Ⅲ）」「季刊南九州文化」第27号　南九州文化研究会

30．山下博明　1986「日向國三俣院山之口の関所（四）」『季刊南九州文化』第28号　南九州文化研究会

31．山下博明　1986「日向國三俣院山之口の関所（五）」『季刊南九州文化』第29号　南九州文化研究会

32．山下博明　1987「日向國三俣院山之口の関所（六）」『季刊南九州文化』第31号　南九州文化研究会

33．山下博明　1987「日向国三俣院山之口の関所（七）」『季刊南九州文化』第32号　南九州文化研究会

34．山下博明　1987「日向国三俣院山之口の関所（八）最終回」『季刊南九州文化』第33号　南九州文化研究会

35．山下博明　1988「日向国三俣院山之口城（亀鶴三石城）」『季刊南九州文化』第34号　南九州文化研究会

36．山下博明　1989「日向国三俣院走湯神社」『季刊南九州文化』第41号　南九州文化研究会

37．山之口町史編さん委員会編　1974『山之口町史』　山之口町

38．山之口町史編さん委員会編　2005『山之口町史』　山之口町

39．吉本正典編　1998『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ　地名表・分布地図編』　宮崎県教育委員会

40．吉本正典編　1999『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ　詳説編』　宮崎県教育委員会

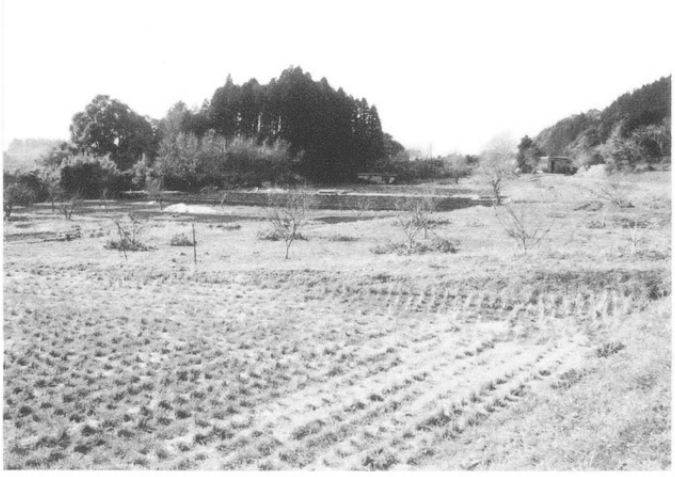
写真１　主な遺跡の現況写真

YK29：箱島遺跡（南東から）

YK40：後田遺跡（東から）

YK39：二本杉遺跡（南から）

YK66：脇之田第２遺跡（県指定山之口村古墳6～10号墳跡地）



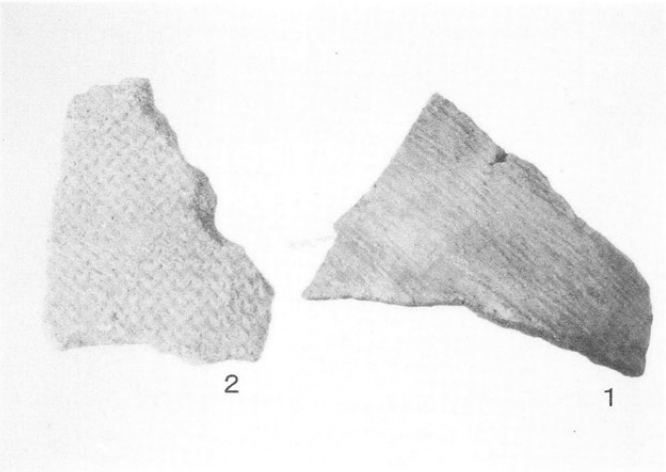
YK95：立野遺跡（北東から）

YK109：一ノ渡遺跡（東から）

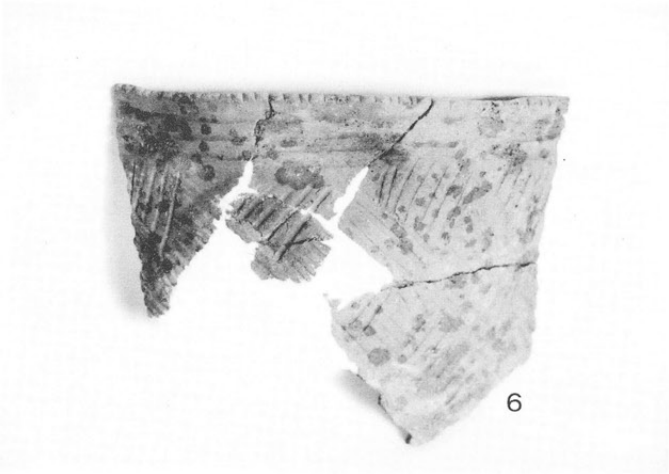
YK110：山之口城跡（東から）

YK117：上長野第１遺跡（南から）

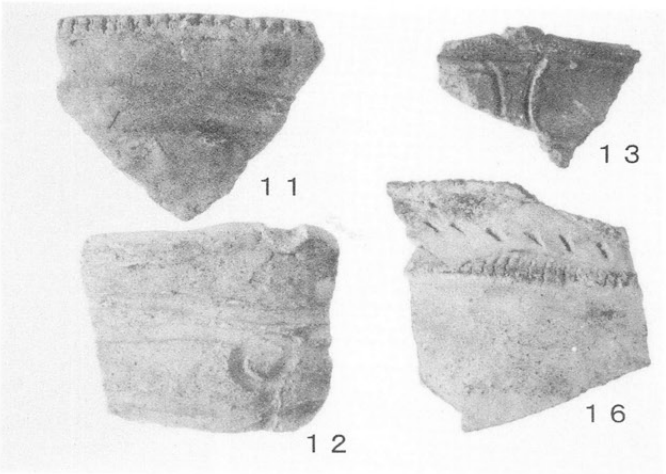
写真２　主な採集遺物の写真



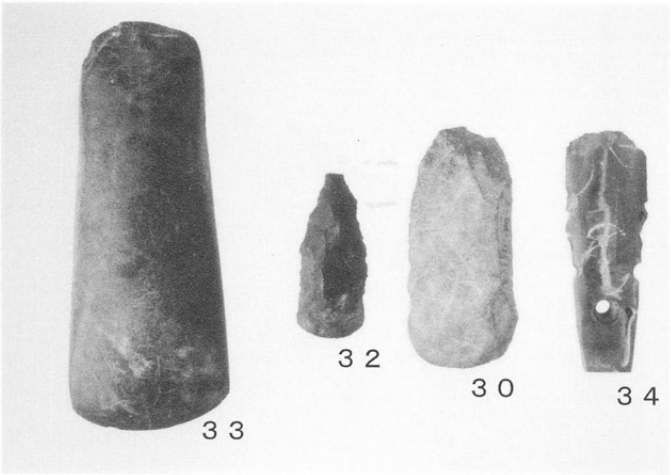

縄文時代早期の土器




縄文時代前期の土器



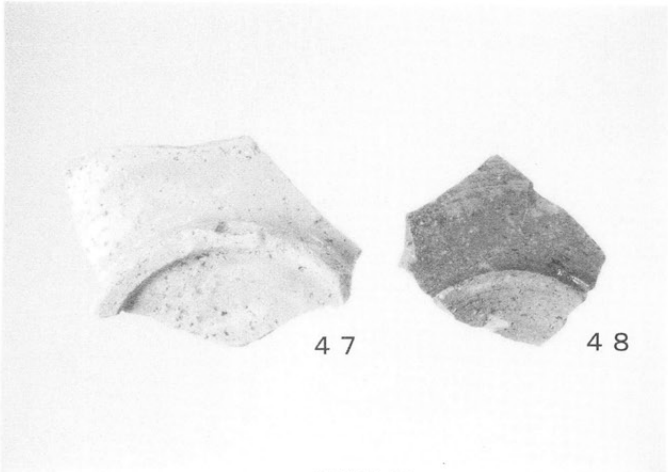

縄文時代後期の土器



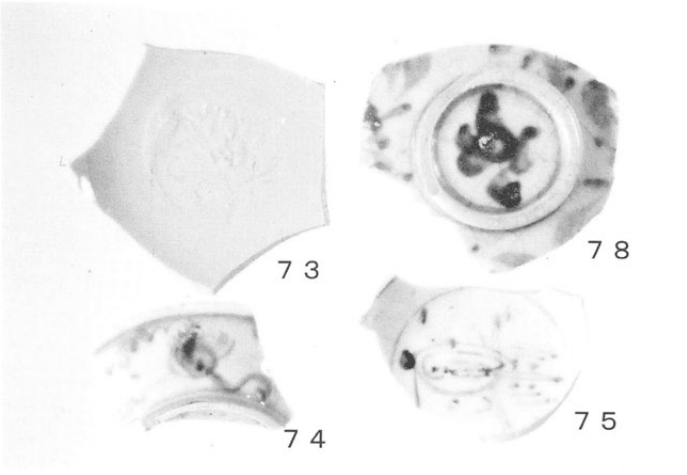

石　　器

弥生土器

古墳時代の土師器（上段）と須恵器（下段）




緑釉陶器




貿易陶磁器（青磁と青花）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | みやこのじょうしやまのくちちくいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書 |
| シリーズ名 | 都城市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第９４集 |
| 編集者名 | 栗畑光博 |
| 編集機関 | 都城市教育委員会事務局文化財課 |
| 所在地 | 宮崎県都城市菖蒲原町19-1 |
| 発行年月 | 2009年3月 |

| 所収遺跡名（フリガナ） | 所在地（フリガナ） | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 都城市山之口地区内遺跡（ミヤコノジョウシヤマノクチチクナイイセキ） | 都城市山之口町内（ミヤコノジョウシヤマノクチチョウナイ） | — | — | 2008,5－2009,3 | — | — |

| 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な採集遺物 |
|---|---|---|---|
| 散布地 | 縄文～近世 | — | 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・国産陶器・貿易陶磁器・石斧・石鏃 |


都城市文化財調査報告書第94集

都城市山之口地区遺跡詳細分布調査報告書

（旧北諸県郡山之口町）

2009年3月　発行

編集・発行　都城市教育委員会事務局文化財課

宮崎県都城市菖蒲原町19-1

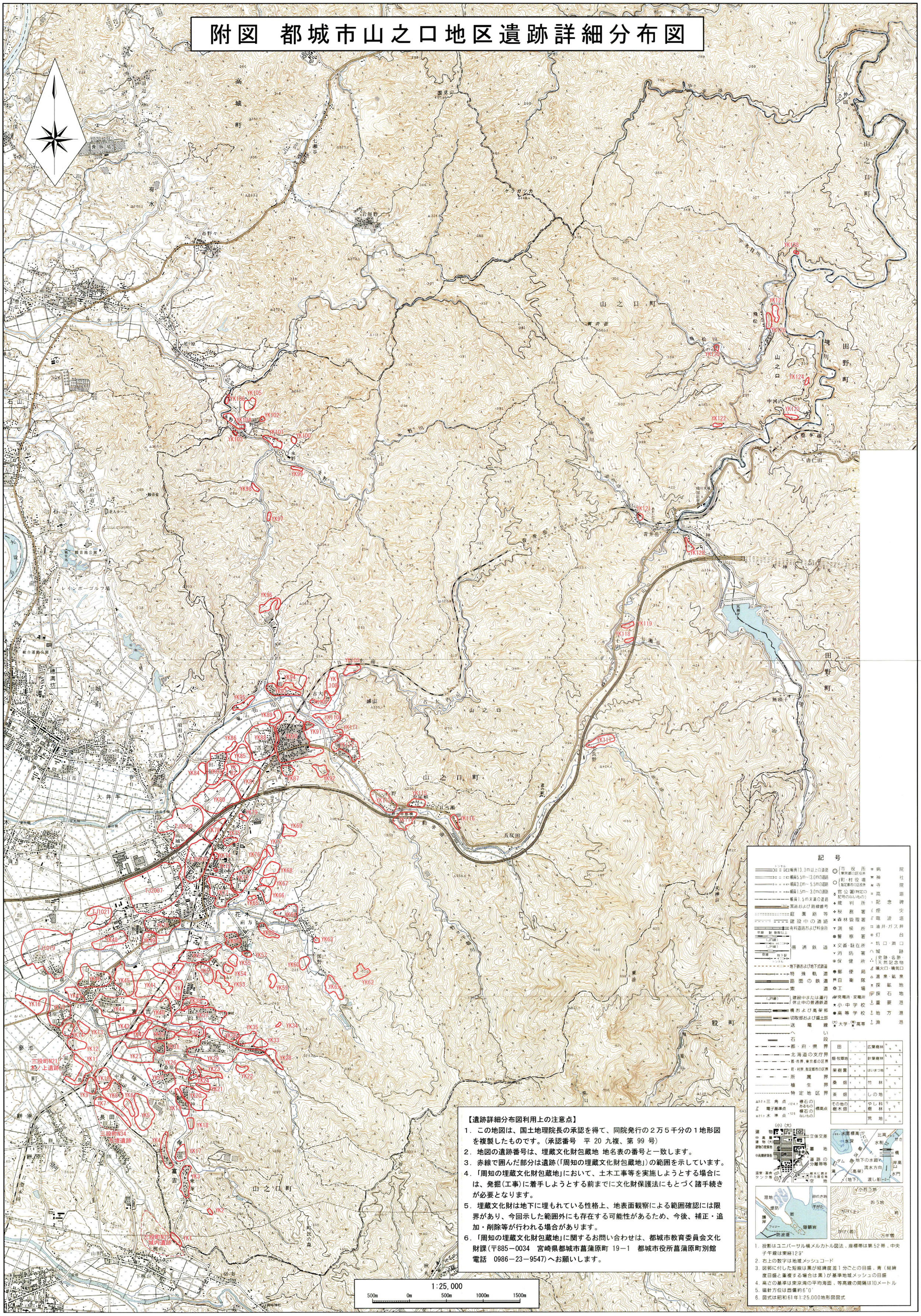
郵便番号885-0034　電話番号(0986)23-9547

印刷・製本　株式会社　東洋テクネット

宮崎県都城市北原町23街区11号

郵便番号885-0024　電話番号　0986（23）7173

# 附図　都城市山之口地区遺跡詳細分布図




【遺跡詳細分布図利用上の注意点】

1．この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を複製したものです。（承認番号　平 20 九複、第 99 号）
2．地図の遺跡番号は、埋蔵文化財包蔵地 地名表の番号と一致します。
3．赤線で囲んだ部分は遺跡（「周知の埋蔵文化財包蔵地」）の範囲を示しています。
4．「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には、発掘（工事）に着手しようとする前までに文化財保護法にもとづく諸手続きが必要となります。
5．埋蔵文化財は地下に埋もれている性格上、地表面観察による範囲確認には限界があり、今回示した範囲外にも存在する可能性があるため、今後、補正・追加・削除等が行われる場合があります。
6．「周知の埋蔵文化財包蔵地」に関するお問い合わせは、都城市教育委員会文化財課（〒885－0034　宮崎県都城市菖蒲原町 19－1　都城市役所菖蒲原町別館　電話　0986－23－9547）へお願いします。

記号

1．投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第52帯、中央子午線は東経129°
2．右上の数字は地域メッシュコード
3．図郭に付した短線は黒が経緯度差1分ごとの目盛、青（経緯度目盛と重複する場合は黒）が基準地域メッシュの目盛
4．高さの基準は東京湾の平均海面、等高線の間隔は10メートル
5．磁針方位は西偏約6°0′
6．図式は昭和61年1:25,000地形図図式